

## 令和元年度 藤野地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和元年10月4日(金)午後7時から午後8時35分まで
- 2 場 所 藤野総合事務所4階会議室
- 3 市側出席者 本村市長、下仲副市長、中島緑区長、鈴木緑区副区長、  
樋口市民局長、高梨市民局次長
- 4 出席委員等 22人
- 5 傍聴者 10人
- 6 懇談会の要旨

|                  |  |
|------------------|--|
| テ - マ            | 住みやすいまち藤野に向けた取組について  |
| 概 要              | 藤野地区は、人口減少が著しく懸念される典型的な中山間地であるが、森や湖がある豊かな自然に恵まれ、様々な文化・芸術活動等が活発に行われている魅力ある地区でもある。藤野地区が抱える現在の課題を共有すると共に、地区の特性を活かしたまちづくりに向けた取組について懇談したい。また、課題に対してはSDGsや芸術的な視点での解決策も模索したい。   |
| (1)「移住・定住促進」について |  |
| 地区の取組状況等         | 移住・定住促進の取組として、藤野観光協会が中心となり、里山の暮らしを体験できるツアーを実施するとともに、国土交通省による「住宅ストック維持・向上促進事業」の補助金により、中古住宅をリフォームし、質を高める取組を行っている。また、移住・定住のマッチングサイト「里まっち」を開設し、移住を希望されている方と不動産を有効活用したい方の相談窓口を設置しサポートを行っている。その他に、「里まちの家推進プロジェクト」と称して、中山間地域の環境に調和し、質の高い住宅について認定を行うことで移住・定住の促進を図っている。昨年度からは「移住・住み替えサポート住宅推進プロジェクト」を立ち上げ、業者と市が協力して、市の都市部のシニア世代、子育て世代の移住を促進し、移住された方の空き家に首都圏からの移住者を呼び込む仕組みを検討中である。これらの取組に対して、3年間で年間平均100件程度の問い合わせがあり、年間20世帯程度が成約に至っているが、提供物件が少ないことが課題である。また、国土交通省の事業が来年度終了することから、事業の継続が困難になることが想定されるため、市と協働で進められる方法を検討したい。 |
| 市の取組状況等          | 現在区ビジョンの策定の中で、中山間地域の支援を重要テーマとして挙げており、移住・定住を市として積極的に取組む方向で進めている。財政的な課題などは検討する必要があるが、教育や交通などの対応について今後のビジョンをつくり、移住・定住に係る中長期的な取組を考えていきたい。(緑区役所)  |

| 懇談内容  |   |
|-------|---|
| 市の発言  | 国土交通省の補助金はいくら受けているのか。（下仲副市長）  |
| 地区の発言 | 3年間で上限2千万円の補助を受けられる制度である。   |
| 市の発言  | 藤野は、顔が良く見え、人を迎え入れてくれる温かい地区だと感じている。移住・定住には雇用や教育が必要であるが、都立の高校に進学するために東京都へ移住してしまうケースがあると聞き、県の教育長へ都立高校への進学を認めて欲しいとお願いしているところである。<br>体験ツアーは旅行会社と連携して観光化するのも良いのではないか。（市長） |
| 地区の発言 | 体験ツアーは福利厚生事業としての実施や、旅行会社と提携して予約を受け付けるなど観光化に取り組んでいる。   |
| 地区の発言 | 移住・定住には雇用が課題である。地元で仕事が出来ればまちにいる時間も長くなり、地域経済も活発になる。ワーケーションの様な働く場所の開発拠点になる可能性はあると思う。<br>廃墟を活用し、若手のクリエイターが仕事を出来るよう支援をしているが、税金が負担となり運用が厳しい現状であるため、減免措置などを考えてもらいたい。      |
| 地区の発言 | 同世代の友人は仕事のために藤野を出て行ってしまっている。若い世代の人が地元に残れるように地域に雇用があればよいと思っている。  |
| 市の発言  | 相模原市は、市民の多くの方が日中の時間帯に東京都等へ出ている現状がある。そのため、市内の雇用促進の場を検討する必要があると、市内におけるテレワークを企業に提案している。買い物についても上野原市まで行く必要があることから、企業誘致を進めることや、地域でも農業の6次産業化を進めていくのが良いと思っている。（市長）         |

| (2) 「交通問題」について |   |
|----------------|---|
| 地区の取組<br>状況等   | <p>国道20号、県道76号の道路拡張工事・歩道整備は進んでいるが、県道76号、520号は高速道路からの抜け道となり、スピードを出した車も多く危険な状況であることから、交差点における車両の速度を減少させるシティリペアについて、規制緩和を含め実証実験ができないか。藤野は芸術による地域活性化策を実施してきており、芸術の力による課題解決を実践していきたいと考えている。</p> <p>また、デマンド交通については、発着が藤野駅ではないことから、利便性に欠けており、観光利用には難しい状況がある。一般人によるタクシー業務「白タク」の規制緩和や、無人電気自動車の実証実験を先行して行うことができないかと考えている。小田急電鉄等による自動運転バスの実証実験が県内で実施されており、経済合理性を優先した場合には実現は難しいと思われるが、行政との連携の中で対応できるか懇談したい。</p> |
| 市の取組<br>状況等    | <p>シティリペアについては、交通管理者である警察の規制が強い現状がある。良いアイデアであるため、まずは警察との話し合いから始めていきたい。</p> <p>自動運転の実証実験については、現在自動車メーカーが一定の規則性のある市街地において実施していると聞いているが、市内における実験には至っていない。交通不便地域の方のためにも、交通問題については優先順位を考えて対応を検討していきたい。区役所の機能強化が実現すれば、中山間地域という地域の特性があることから、ある程度区の権限で、公共交通の充実が徐々にでも図れればと考えている。<br/>(緑区役所)</p>  |

| 懇談内容  |   |
|-------|---|
| 市の発言  | <p>帰りのバスの時刻が合わないことが不便に感じており、地域の現状は理解している。デマンド交通は観光客にも有効的だと考えるが評判はどうか。<br/>(下仲副市長)</p> |
| 地区の発言 | <p>電話で予約して、自分の都合で車が来てくれるため、便利であり継続してほしい。やまなみ温泉でバスに乗り換える必要があるので、藤野駅までつながると良い。</p>      |

|       |  |
|-------|--|
| 市の発言  | <p>公共交通空白地の課題は市内全域で問題となっている。津久井地区の長竹では橋本駅からの買い物難民になるという話を聞いた。デマンド交通を導入しているが、コミュニティバスは条件も多くハードルが高い。乗合タクシーやデマンド交通に対する地域の方の意見は、他地区への導入にも活かせると思う。</p> <p>シティリペアの導入は芸術家の多い地域ならではの面白い考えである、予算等の厳しい部分があるが、警察に話をし前に進めていきたい。</p> <p>中央自動車道についても、3車線化が進められているが、相模湖東インターチェンジが出口専用である事など、地域の意見を伝えていきたいと思っている。</p> <p>国道20号は歩道がない部分もあり、危険であることから、拡幅等の対策は急務であり、国において進めてもらいたいと考えている。国道413号については、神奈川県側が狭いことから、山梨県知事と面会する予定であり、様々な働きかけを行っている。</p> <p>自動運転についてはプレジャーフォレストも市内にあることから、富士急行株式会社に提案してみたいと考えている。 (市長)</p> |
| 地区の発言 | <p>シティリペアが実現されれば、芸術を学ぶ子どもたちに対して、芸術は多様性があり幅の広いものであるという事が実感できる機会となる。</p>   |
| 市の発言  | <p>過去に歩道が設置できない狭い道路へ、通学路の目印として緑のラインを引いた際に、警察署から苦情が入ったことがあったが、良い効果があると認識されたからは、市の象徴的な事業になった。導入には難しい部分もあるが、警察と協議して進めていきたい。 (緑区役所)</p>  |
| 市の発言  | <p>この取組が認められて全市、全国に広まる可能性もある。このような発想が出ることが藤野地区の魅力であるため、今後も提案があればいただきたい。 (市長)</p>   |
| 地区の発言 | <p>民間施設がボランティアで地域の方を車で送迎しており、民間で交通問題解消を図ることができると思う。ガソリン代等の実費負担については、白タク規制の緩和が行われれば活性化につながると思う。</p>   |
| 地区の発言 | <p>規制の中で乗合タクシーを実施できているが、将来を見据えると継続するのは難しいと考えていることから、今後市と議論していきたい。</p>  |
| 市の発言  | <p>乗合タクシー及びデマンド交通に実際に乗車して勉強していきたい。 (市長)</p>  |

|                  |  |
|------------------|--|
| (3) 「鳥獣被害対策」について |  |
| 地区の取組状況等         | <p>まちづくり会議の環境部会において環境問題について検討しており、3年前からまちづくり懇談会において、ホテルの鑑賞やヤマビルなどをテーマとして取り上げ対策等をお願いしている。わなを設置するなどの対策を独自に行っている地域もあり、市と地域とが一緒になり対策を進めていきたい。</p> <p>不法投棄防止対策として、環境部会において、被害状況やカメラの設置効果等の調査を進めているが、すでに効果をあげている地域もある。</p> <p>リニア工事に伴う地域への影響についても心配している。</p> |

|                     |  |
|---------------------|--|
| <p>市の取組<br/>状況等</p> | <p>被害防止計画を策定したことで、昨年度から国の財政的なサポート等を受けている。サルについては、神奈川県は東京都や山梨県とは異なり、簡単に駆除できないことから、神奈川県側に移動してくると考えられる。対策としてドローンによる調査を行っていることや、ICTを利用した檻を取り入れる予定だが、地域としては不十分だと感じていると思う。</p> <p>山北町では、有害鳥獣が一番の課題であり、鹿が侵入しないよう防護柵を数十キロに渡り設置しているが、膨大な費用が掛かる。相模原市では対策を始めたばかりであり、取組んでいきたいと考えている。</p> <p>県ではヤマビル被害の原因となる鹿が街に下りることを防ぐため、山を手入れする取組を行っているが、ヤマビルについては有効的な手立てがないのが実情である。有害鳥獣については、国、県、市、地域が一体となり取り組む問題だと考えている。</p> <p>不法投棄対策については、防犯カメラの設置が効果的ではあるが、行き届いてない地域もある事から、パトロールなどを充実させ、警察と調整しカメラ設置の取組を進める必要があると考えている。</p> <p>リニア工事については、市全体の問題であると捉えている。すでに市内では非常口の工事が開始されているが、市も積極的に関わり、地域の方の生活に影響がないようにJR東海と話をしている。残土置き場についても、県やJR東海と連携し、情報を提供していきたい。</p> <p>水の問題については、過去に工事により大井川での水量が減少した事例があり、地域としては深刻な問題であると思っている。しかし、工事を施工してみないと影響があるか分からないことや、将来的にもどのようなようになるか分からないという実情がある。藤野地区では市営簡易水道や専用水道等でまかなわれている地域も多いと認識しているため、どのように水の供給をするのか、県、市で考える必要があり、JR東海に対しても対応を強く求めていきたい。（緑区役所）</p> |
|---------------------|--|

| 懇談内容         |  |
|--------------|--|
| <p>地区の発言</p> | <p>水の問題については、井戸水をくみ上げている地域等では、水道施設が震災等で倒壊することを心配している。移住・定住や自然災害等を踏まえて、計画的に水道を市営にする考えはあるのか。</p> <p>リニア工事に伴う残土や資材の搬出入において、大型車両の出入りが生じる。県道76号は緊急輸送道路に指定されているが、道路の改良工事が遅れている。このままの状況でリニア工事を進めて良いのか、道路管理者としてどのように考えているのか。</p> |

|              |  |
|--------------|--|
| <p>市の発言</p>  | <p>水の問題については市でも承知している。市営簡易水道として継続するのが良いのか、県営水道に移管するのが良いのか状況に応じて今後判断を行わなければならないと考えており、市の計画の中で検討している。リニアの工事で影響を受ける地域については、優先的に実施する必要がある事は担当課も認識している。水脈の兼ね合いもあるため、全て市で対応するとは言えないが、現在検討中であることを理解して欲しい。</p> <p>リニア工事については、搬入路の経路について交通安全上問題ないか検討した後に地域に示すという考え方で進めている。工事期間について、5年間かかるものを3年間に前倒して終わらせる箇所もある。JR東海からの事前説明の際に、実情をよく知っている地域から、問題箇所があれば意見をして欲しい。</p> <p>道路改良については、長期計画の中で道路の優先順位をつけ、限られた財源の中で順番に進めていきたい。<br/>(緑区役所)</p> |
| <p>地区の発言</p> | <p>リニア工事の話は以前から進んでおらず、工事が始まってからでは間に合わない。水の問題についても、水が出なくなってしまうからでは間に合わないため、実際に生活している人がいるという事を考えて早く進めて欲しい。</p>   |
| <p>市の発言</p>  | <p>地域への説明までに時間を要することは理解して欲しい。<br/>(緑区役所)</p>   |

|                    |   |
|--------------------|---|
| <p>市長の感想<br/>等</p> | <p>藤野町の出身の方から、30～40年前は鹿やイノシシ、ヤマビルといった動物をまちで見ることがなかったと聞いている。現在は過去に植樹したスギやヒノキの手入れがされていないことから、水源環境保全のため、県では水源環境保全税、国では森林環境税を導入するなど新たな試みを始めている。山の手入れが行き届かず、人と野生鳥獣の生活圏の境界が無くなりつつあることが、鳥獣被害の原因であると考えている。対策の一つとして、佐野川産の杉材をオリンピックの選手村に使用しており、返却後はレガシーとして活用し、今後は木の切り出し等など林業に力を入れたいと考えている。耕作放棄地が多いこともヤマビル等の被害を拡大させ、農業の減退に繋がる。鳥獣被害の対策として、電気柵の施策の他に、市内に生息している約300頭のサルの動向をGPSで把握し、冬には佐野川・澤井地区にICTを利用した檻を導入する予定である。</p> <p>リニアに関しては、用地買収において、市の担当者しか顔が見えてこない、JR東海は顔が見えないという地域の意見を国会でも訴えてきており、今後も質問や意見を受け止め、JR東海へ働き掛けていきたい。</p> <p>水の問題については、誰一人取り残さない、持続可能な社会をつくるためにも県営水道等への移管について庁内で議論を進めている。できるだけ地域に足を運びたいと考えているため、地域の課題で見たいこと、知って欲しいこと、相談したいこと等があれば伝えて欲しい。</p> <p>また、議会とも連携しながら、より良い地域づくりを応援していきたい。<br/>(市長)</p> |
|--------------------|---|